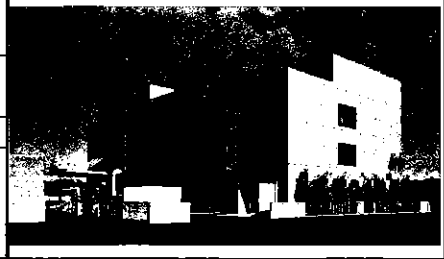


# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_進捗版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.5)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	株式会社エネコートテクノロジー本社新築工事	階数	地上4F
建設地	東京都宇治市伊勢田町砂田119-1,120,121-1,121-2,178-1,178-2	構造	S造
用途地域	準防火地域	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年6月/ 予定	評価の実施日	2025年3月31日
敷地面積	2,703㎡	作成者	村上 貴信
建築面積	1,440㎡	確認日	2025年3月31日
延床面積	5,053㎡	確認者	村上 貴信



<b>2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&amp;チャート)</b>	<b>2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)</b>	<b>2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)</b>
<p><b>BEE = 1.2</b> ★★★★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p><b>Qのスコア = 3.1</b></p>

<b>2-4 中項目の評価 (バーチャート)</b>		
<b>Q 環境品質</b>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 3.2</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 2.9</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> Q3のスコア= 3.2</p>

<b>LR 環境負荷低減性</b>		
<b>LRのスコア = 3.3</b>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 3.1</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 3.6</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 3.2</p>

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
<p>・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の低減に努めている。</p>		
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>
<p>・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。</p>	<p>・リフレッシュスペースを十分に確保することにより、快適なオフィス空間の向上を図っている。</p> <p>・耐用年数の長い内装材・配管材等を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。</p>	<p>・植栽による修景、視点場からの外観パースによる検討等、良好な景観形成へ配慮した取り組みがある。</p>
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
<p>・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。</p>	<p>・Oフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。</p>	<p>・広告物照明はない。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される